

今年の夏場対策や如何に



今年も暑い夏がやって来る。先日、送迎車の中で、「冬の寒さと夏の暑さどちらが大変だろう。」という話でした。私の子供の頃は一般の家庭の電気は定額制で朝明るくなると電気は消え、夕方にならないと電気は来ない。従って、電気とは夜に明かりを付ける為の物であって冷暖房は勿論電化製品一切が無い時代であった。そのため、冬の寒さは木を燃やしたり炭火で暖は取れるが、夏のうだ

なかま新聞

なかま新聞
編集 新聞部員
姫路市北条宮の町
215番地
TEL079-287-1025

るような暑さには参った印象が私には強い。電気が文明の

利器として庶民の生活に溶け込んだ現在では電気の無い生活なんてあり得ないし、まして厳しい競争の産業界にとっては電力は大動脈であり削減の余地は無い筈である。昨年三月東日本大震災での福島原発倒壊の悲惨な出来事から、日本の電力が原子力に依存する体質が大きな問題になってきた。あれから一年数ヶ月経った現在に於いても政府の対応が遅れ後手に回り、電力問題は棚上げ状態となつて、長期ビジョンはあるか、今年の夏のピーク時対策すら危ない状況になっている。こんな状況の中、我々は電力不足は覚悟して、この夏場の乗り切り方を真剣に考えようではありませんか。先ず考えられることとして一、熱中症に掛からぬ対策を自分なりに模索する。

一、十分な睡眠を取り、生もの生水を避け体調の維持に努める。

一、どつちも体調がおかしいと感じた時に、気軽に相談出来るお医者さんを持つ。

等が浮かんできます。

仲間の皆様、「絆」の心を大切に、この夏を仲間の力で元気に乗り切りましょう。そして「私はこの夏をこうして乗り切ったよ」と、秋にどんな自慢話ができるか楽しみにしたいですね。

文・写真 岩村 和雄



ティータイム

全国パーキンソン友の会の全国大会が広島で開催され、図らずも五十年ぶりに広島島の地を訪れることとなりました。

広島に着き、昔の焼け野原の面影がなくなり、近代的な美しい都市に変身していたのには、少なからず驚かされました。

平和資料館の展示物と平和公園の樹木とが、破壊と育成(成長・進化)の姿を象徴的に物語っているようで、とても印象的でした。

幼少の頃、学校で習った格言の一つに『天は自ら助くる者を助く』という言葉があります。独立、依頼心なく奮闘努力するものを天は助けて幸運を与える、の意です。何事も努力しなければ、進歩はないということでしょう。再生医療の研究は進んでいるようですが、パーキンソン治療の実用化はまだまだ先のようです。

私達も今、自分自身ができる努力を行いながら、いつか病魔からの開放という、天の助けを待とうではありませんか。

長谷川 和宏

仲間の声

木下 素子

はじめ、べとべとと湿度の高い、肌にとわり着く嫌な梅雨時の空気。体調管理に苦慮する季節です。

でも、雨の中で色とりどりの紫陽花が心を和ませ、菖蒲が凛とした美しさを見せてくれます。無理をせず楽しく梅雨期を過ごし、つづく暑い夏を上手に迎えたいものです。

ところで「あけび」に通うようになって半年余りになりました。スタッフの皆さんのお名前も憶え「あけび」の雰囲気にも慣れてきたところです。

行事のたびに、初めての経験なので、新鮮な思いで参加しています。姫路城でのお花見の折、思いがけない花吹雪の中で過ごすことが出来たことは大感激でした。これからの行事に期待しています。



山田 重子

去年の「ゆかた祭り」の日に倒れて入院しました。病院に飾ってあった七夕飾り。その短冊には入院患者さんの「お家へ早く帰れませうよ」とか「元気になりますように」などの願いが書かれていました。今こうして「なかま」の皆さんと一緒に元気で居られることに感謝しています。そして、楽しい話題が提供できるように頑張ります。

英山 チャ子

先月は梅雨時の台風襲来で、水浸しになってしまいました。

ところで、私は夜中の静かな雨音に心を癒されます。が、激しい雨音には苛立ちを覚えます。雨は私の心の鏡みたいで、私は雨が好きなのです。雨、そして水によって私達は生かされています。

これからも、神と周りの全てのものに感謝して、生きていきたいと思っています。

大西 正

梅雨の時期になると若かりし頃の姿を思い出す。高校の柔道部の悪友四人衆のことである。彼等が黒帯を肩に掛け、風を切って歩く様は勇ましかった。

その悪友四人が23歳の時、長野方面へ遊びに行った。ダム近くの坂道で危険な箇所があり、通行止めになっていた。警備の制止を無視して通り抜けようとした時、突然山崩れが起き、彼らは土砂と共にダムの底に沈んだのである。

親友を亡くしたことにより、その後私自身も変化していったのかもしれないと、いつもこの時期になると思いを新たにします。

ある日息子と娘が、私の定年と還暦の祝いにとパグ犬をくれた。子ども達は、家内の教育が良かった為か立派に育ってくれた。

家内と二人の子どもにも感謝し、また、子どもたちの成長に感動した出来事であった。孫娘の彩がその犬に『まる』と名まえを付け、今とても可愛がってくれている。

短歌・俳句・川柳

七と夕ななゆう

なぜたなばたと

孫の同う

さみだれを

残して空に

夏は来ぬ

英山 敬烈(英山氏の子息)

奥野 ヨシ子

二年前に、一の宮の道の駅で求めた観音竹に、花が咲いたので驚きました。花が咲くこと自体知らなかったものだから。

そこで「緑の相談窓口」に電話で尋ねると、「たまに咲いたという電話が寄せられる」とのこと。なぜ花が咲くかは、根詰まりして

いて、植え替えて欲しいサインらしいのです。鶏のとさかみいたいな花を付けています。

